

真理子先生の

女性の ミカタ

子宮頸がん ①

真理子レディースクリニック
院長

伊藤 真理子

●(しとうまりこ)1986年山形大学
医学部卒業。山大病院、篠田総合
病院を経て2005年6月に真理子レ
ディースクリニックを開業。日本産科
婦人科学会認定産婦人科専門医。



年間3000人近くが
亡くなる「子宮頸がん」
は、20〜30歳代の女性に
も増えています。

子宮の出口で発症

子宮頸がんは文字通り、子宮の出口にある子宮頸部にできるがんです。子宮頸部はとても柔

らかくデリケート。特に女性ホルモンの多い年代は、子宮頸部の皮膚に炎症が生じる「子宮腔部びらん」という状態になることがあります。子宮腔部びらんが生じてしまうと、外敵から身体を守るバリア機能が弱まり、性交などにより性感染症リスクが高まって

しまいます。

原因はHPV感染

性感染症には梅毒、淋病、性器クラミジア、性病ヘルペスなどがありますが、子宮頸がんの原因になるのがヒトパピローマウイルス（HPV）への感染です。

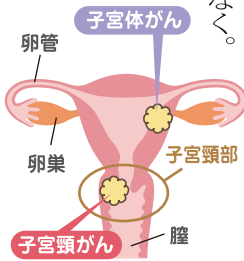
ただHPV自体はごくありふれたウイルスで、性交渉の経験がある女性なら、一生に一度くらいは誰でも感染する可能性があるのです。

ゆっくり進行します

HPVに感染してもウイルスが自然消滅する場

合もありますが、長期間にわたり感染が続くと、子宮腔部の粘膜が「異形成」という変化を生じ、子宮頸がんに進行する恐れがあります。ただ異形成は子宮がん検診で見つけることができます。

HPVに感染してから子宮頸がんに進行する期間は数年から数十年とされ、ゆっくり進行する病気だということを忘れなく。



予防できるがんです

ただ、子宮頸がんは実

は、ほぼ防げるがんだということを知りましょうか。

子宮頸がんにならないためには、性交時に最初から最後まで100%コンドームを使うのが一番ですが、一生の中で難しい場合もあるでしょう。次からは予防についてお話しします。

(産婦人科)

真理子レディースクリニック

☎023-632-0666 山形市小姓町 6-35

医療事務さん
募集中

詳しくはお問合せ下さい。

